「多様性を尊重する社会に」　４月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

昨年の暮れ、東京浅草を訪れた際、外国人観光客の多さに驚かされました。日本政府観光局の統計によると、日本を訪れた外国人旅行者数は、この二十年間で七倍以上となったそうです。また、最近では技能研修で日本に来る外国人労働者が増えており、市内においても例外ではありません。今後、日常生活の中でさまざまな国の人たちと接する機会が増えていくことが予想されます。

こうした中、言語や宗教、習慣などへの理解不足からくる偏見や差別意識により、人権問題も発生しています。「日本に居住している外国人に関し、どのような人権問題が起きていると思いますか」という内閣府が行った調査では「習慣などの違いが受け入れられないこと」「アパートへの入居や公衆浴場での入浴を拒否されること」が高い割合で挙げられています。もし自分が外国で同じような扱いをされたらどうでしょうか。

日本人にとってなじみの薄い文化や習慣であっても、その起源や詳細を知り、理解することで誤解をなくすことができると思います。以前読んだ本に、イスラム圏からの観光客の増加に伴い、イスラム法で合法なものを意味する「ハラール認証」を取得する飲食店が増えたり、礼拝に対応するため、さまざまな施設に祈祷室（きとうしつ）を設けたりする動きも広がっているとありました。このように自分と異なる文化や宗教、習慣などを寛容に受け止め、暮らしやすい環境づくりに努めることが多様性を認める社会につながるのだと思います。

外国人だからと特別な目で見るのではなく、お互いに心の壁を取りはらい、共に生きていく社会を築いていくことが大切です。まずは、その違いを知ることが大切ではないでしょうか。外国人が住みよいまちは日本人にとっても住みよいまちとなるはずです。